

現代書部

石飛 篤

先日、小二の男子が教室に入るなり、「じいじの誕生日にお習字で書いたものをプレゼントする」と宣言。何を書くのかとみていたら、なんと「生」の一字。せっかくなので色紙に書くことに。力強い「生」でした。また、別の日。卒業アルバムを表紙に揮毫したと報告してくれた中三女子。真面目な彼女らしい誠実で意志の強さを感じる字でした。「書道」は日本の芸術文化であると同時に、生活文化に根付いたものであるということを実感。現代書（漢字かな交じり書）も、作品を通して、自分の思考や感動を表現したり、実用的な場面に生かしたりする分野。ぜひ書いてみてください。

現代書部 課題

A 木苺の下向く花に顔よせて

嗅げばほのけき香に匂ひある

(木下利玄 歌)

B 子規なくや夜明の海がなる

(加舎白雄 句)

(しめきり……………五月十七日)

用紙

○A課題 小画仙角半、半切縦

○B課題 半切1/2縦・横自由

出品資格

一般および高校生

◎条幅出品券を作品の右下へ必ず貼付すること。

なお、作品の裏右下に氏名を忘れず記入のこと。

※A・Bの両方同時に出品可。

※二点出品の場合、出品券の下部にA・Bを明記のこと。

(選評)

A課題の部

美華君 直線を駆使した小気味よいリズム。

「春の」あたりの筆遣いが魅力。

華風君 線の太さや激しさがなくても見せられるのが書の魅力。清々しい。

溪雪君 中央の「春の野山に」あたりの表現が豊か。

翠柳君 淡墨で心趣くまま筆を進めて書き上げた佳作。中央の空間がもう少し欲しい。

麗石君 温かな線質で最後まで詩文を読ませてしまう魅力がある。

美映君 散らし方がうまく、空間が美しい。墨色に工夫を。

B課題の部

かおる君 落ち着いた線で丁寧な作品。

真里君 ひらかなを木簡隸風の漢字によせて一体感あり。

桃華君 軽快な前半と打楽器のリズムでまとめた後半の対比が成功。

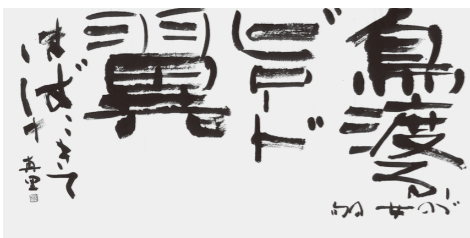
鉄郎君 作品に澄んだ明るさがある。

紫峰君 主役となった「鳥渡る」の躍動感が華やか。後半に墨量と字粒の変化がほしい。

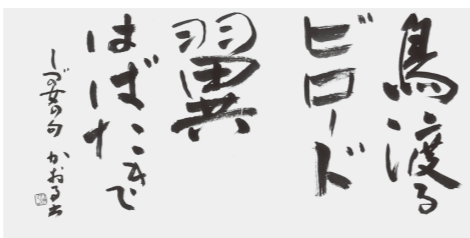
瑞泉君 建築物のような文字の配置がうまい。

青映君 カタカナによせた漢字の造形でオシャレに仕上げた。

清寿君 墨量たっぷりで重厚感がある作品。



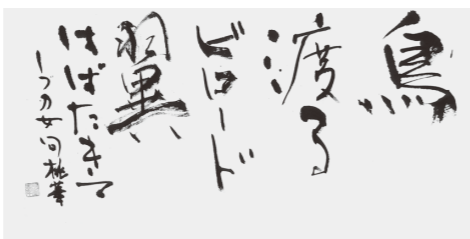
佐藤 真里



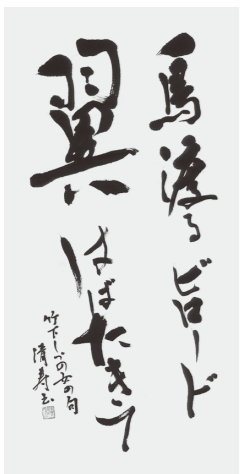
中島 かおる



田中 鉄郎



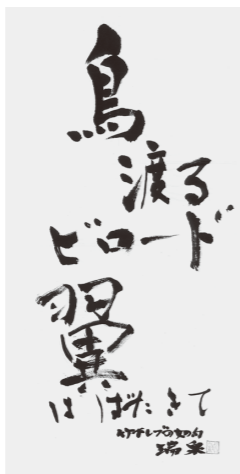
井上 桃華



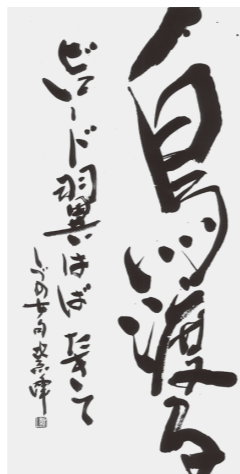
中村 清寿



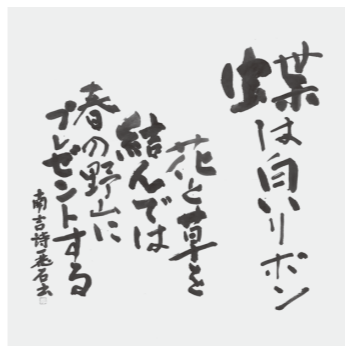
西嶋 青映



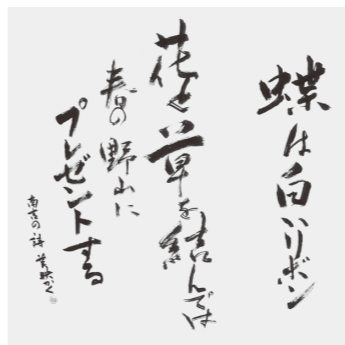
安積 瑞泉



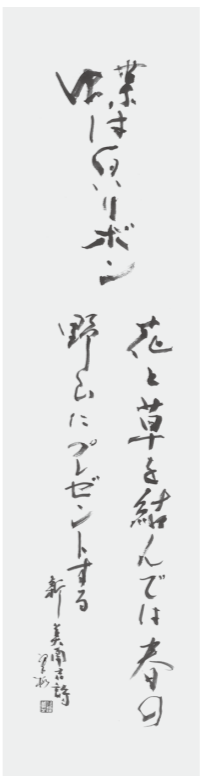
上田 紫峰



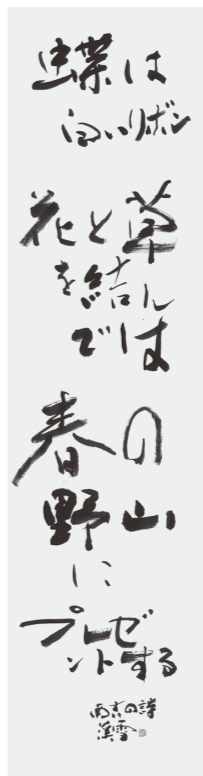
福島 麗石



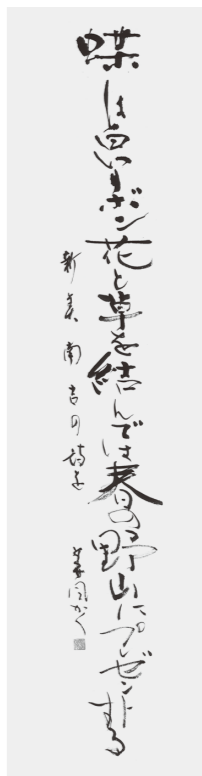
小塩 美映



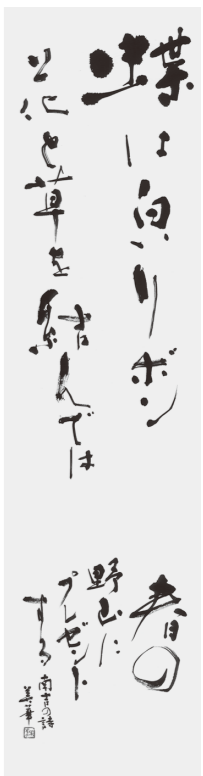
八幡 翠柳



徳永 溪雪



北野 華風



佐藤 美華